

保護者等からの事業所評価の集計結果

公表	
事業所名	てらびあぽけっと岐阜瑞穂教室
公表日	2025年 12月 20日
利用児童数	2025年 9月 2日
回収数	2 6

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	24	2			・セラピーの活動の中では問題ない広さだが、玄関が混み合うと狭くなり、子どもが靴箱まで行きにくそうな場面があるため、大人が早く気づき通路を開けることが必須。 ・サーキットなどをやる時は少し狭いと思う。 ・個室もあるので集中すべき時には助かる空間だなと思いました。	活動内容によってスペースが確保できるように物の配置場所などを工夫し、子どもが活動しやすいスペースの確保や環境整備をしていく。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	26				・一対一で対応していただけるのがありがたいです。	一対一の対応ができる職員配置を今後も実施していく。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	25	1				
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	26				・洗面台に踏み台があったり、トイレもカーテンで仕切られているのでとても配慮されていると思います。	今後もお子さまたちが安心して心地よく過ごせる清潔で気持ち良い環境を作っていく。また、子どもの特性を考慮した環境整備や配慮をして子どもたちが落ち着いて過ごせる教室にしてい
適切な支援の提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	25			1	・通所したばかりでまだよくわかりません。 ・集団が苦手な無ず子に合わせて支援やセラピーを考えてくださっていると思います。 ・その時の子どもたちの様子に沿って対応していただけていると思います。	定期的に一人一人のお子さまについて、発達の様子や取り組んでいるセラピー内容、セラピーの仕方、関わり方などを職員で話し合っている。今後も引き続き会議をして見直しをしながら、よりお子さまに適したセラピーをしていく。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	25			1		
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	26					
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	25	1				
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	24			2		
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	23	1		2		
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	14	1	3	8		
保護者への説明等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	26				・わからないことに対してとても丁寧に対応していただけてとても嬉しいです。	見学や体験の際の丁寧な説明の他、利用開始後も都度保護者様に支援内容や規定などを説明し安心してご利用していただけるようにしていく。
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	26					
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	25			1		
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	25	1			・その日に何をしてどんな様子だったかを細かく教えていただけて嬉しいです。	毎回の迎えの時の連絡や報告が、少しでも保護者様の応援になればという気持ちで今後もお話ししていく。安心して何でも話せる関係づくりを意識していく。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	25	1			・細かいことも質問すると詳しく返答いただけて助かっています。 ・子どもの特性をよく理解した上でのアドバイスをもらえる。	より相談しやすい教室にしてい。保護者様一人お一人に寄り添った支援を心がけていく。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	24	1		1	・どんなに小さいことでもできたことに対して声をかけていただけるのが嬉しいです。	保護者様の気持ちに共感し、一緒に考え取り組んでいくという意識を、今後も全職員で共通確認して支援に取り組んでいく。
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	10	5	1	10		
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	24	1		1		
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	24			2	・今何が課題か時々言ってもらえるとさらにセラピー内容が理解できてよいのではと思う。	セラピー内容の報告だけではなく、お子さまの課題や現在の成長段階、今目標としていることなどもお伝えしていく。全職員で共通確認する。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	24	2			・毎月てらぽけ通信をもらっています。 ・最初にお願ひしていたこと(SNSは顔出しLNG)を守っていただけているので良かったです。	今後も毎月の通信の発行やSNSでの発信、個別の連絡など保護者に対してこまめにお子さまの様子などを発信していく。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	26				・写真では顔がわからないように配慮してもらっています。	個人情報の配慮を今後も徹底していく。

非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	23	1		2		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	22	1		3	・避難訓練をしている時がある。 ・訓練の写真を見ました。	年2回の避難訓練の実施を今後も継続し、通信などでご報告していく。
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	24			2		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	20	1		5	・ケガをした際充分な説明がなく再度確認をこちらから取りました。 ・事故などはなかったのでわかりません。	職員によって報告内容などが異ならないように共通確認と周知をしっかりと行う。特にケガや事故の際の説明は詳しく行うことを徹底し、事故が起きない環境をつくる。
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	25			1	・子どもの平気な顔を見ると先生のことを信頼しているのが伝わる。 ・まだまだ泣いたりするが楽しんでいると思います。	今後もお子さまが安心して笑顔で通える教室づくりを職員全員でしていく。
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	24			2	・機嫌のいい日は早く行きたそうにしている。 ・とても楽しみに通っています。 ・とても楽しそうに通っています。	お子さまが何を楽しみに通ってくるのか、情報をいただきながらより楽しみになるものやなることを工夫していく。職員もお子さまに会えるのを楽しみに日々支援をしていく。
	29	事業所の支援に満足していますか。	25	1			・職員の方々が子ども・保護者に対して寄り添い適切な対応をいただくため大変満足している。 ・いつもありがとうございます。	今後も満足していただける支援を、様々な角度から検討し見直してよりお子さまと保護者様の意向が反映される支援にしていく。

事業所における自己評価結果						
公表						
事業所名		てらびあぱけっと岐阜瑞穂教室				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		遊具を都度片付けてスペースを確保している。1クールに一人一室の個室が利用でき、集団でも活動できる広さもある。	日頃のチェックを今後も続け、利用者さまが活動しやすい環境を整えていく。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6		担当はあるが、全職員でお子さま全員を見る意識をもって支援している。1対1でじっくりとお子さまにセラピーができている。やむを得ない場合を除いていつも1対1になるようにシフトが組まれている。	1対1での個別指導の体制を引き続きしっかりと確保していく。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6		文字やイラストでスケジュールや部屋、物の場所などを視覚化してわかりやすくしている。玄関に飛び出し防止の柵があり、玄関ドアはロックが2つ付いているなど安全対策もできている。段差をなくしたり転んでも傷ないように工夫している。	まだまだ改善の余地があるので、職員で定期的に点検と検討を重ね、適した環境を整備していく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		毎日清掃をして清潔にしている。玩具や教材、机、椅子を毎日消毒している。常に換気をし、1日おきにアルコールで床を消毒して感染防止に努めている。	清潔で過ごしやすい環境、空間を引き続き全職員で作っていく。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		活動や子どもの状態に応じて適切なスペースを利用できるように工夫している。一人一部屋必ず個室を利用できるように確保されている。	個別の部屋はセラピーはもちろん、気持ちを落ち着ける場所にもなるので、安心できるよう刺激を減らした空間を引き続き作っていく。
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	5	1	定期的に会議の時間を作って振り返りや事例検討をしている。	パート職員の勤務時間によって、全員参加のミーティングはまだ不十分なのでやり方を工夫していく。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		保護者向け評価表のほかに、3か月に1回の保護者参観を実施してアンケートでご意見をいただいている。また、日頃の保護者との話の中で出たことから改善点がある際はすぐに検討し改善している。	今後も保護者からの意見について職員全員で共有し、業務改善にすぐにつなげていく。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		定期的に会議の時間を設け意見を把握するようにしている。気づきや疑問などを職員で出し合い検討する関係ができている。	パートの職員の参加が課題で全員参加の会議の設定は課題である。業務改善を進め働きやすい環境づくりのためにも、まめに意見を把握する場を作っていく。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		6	第三者による外部評価は実施できていない。	第三者による評価の実施を検討し、来年度の評価から実施していく。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		テーマごとの研修を動画で受講できるように配慮がされている。県の研修にも可能な限り参加している。	事業所での研修は充実しているが、法人内での研修の開催はまだ十分ではないので、検討していく。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6		支援プログラムを作成し、公表システムで公表している。	支援プログラムの適切な作成と実施に引き続き取り組んでいく。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	6		見学、体験時の他に支援計画の見直しの時期など、その都度アセスメントを行ってお子さまや保護者様のニーズを把握している。	今後も丁寧にアセスメントを取ってご利用者様のニーズの把握をしっかりとしていく。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		個別支援作成の際は必ずカンファレンスを開き、支援にかかわる職員の意見を聞き取って適した計画になっているか必ず検討するようにしている。	児童発達支援管理責任者の考えに偏らないように、全職員の目で検討し、よりお子さまに適した支援計画になっているかを今後も検討していく。
	14	児童発達支援計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		支援をする職員は必ず支援計画も毎回確認して支援内容を検討したり実施することになっている。	全職員で共通確認することを今後も徹底し継続していく。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6		アセスメントシートを活用してお子さまの状態を把握し、日々の行動観察の内容も記録して全職員で共有している。	引き続きアセスメントをしっかりとってお子さまの状態の把握につとめていく。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6		個別支援計画に項目を設定して具体的に支援内容を記載している。	今後も実施していく。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		個別指導の内容では都度担当セラピストがリーダーにプログラム内容を確認して立案している。小集団活動では、チームで立案や準備等を行っている。	定期的なミーティングの時間を今後も引き続き確保して、チームでの立案も行っていく。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		プログラムが固定しないようにプログラム内容のデータを毎回確認し、まんべんなくプログラムに取り組みようにしている。	今後もミーティングや日頃の引継ぎをまめに行い、プログラムが固定しないようにしていく。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	6		個別活動と集団活動をすべてのお子さまができるように計画作成し、プログラムのスケジューリングをして取り組んでいる。	月1回以上必ずのお子さまも集団活動も合わせたプログラム選択を今後も継続して行っていく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		毎朝のミーティングのほかに、各クール開始前と終了後に必ず打ち合わせをしている。	打ち合わせを今後も引き続き行うほか、勤務していない従業員にもグループLINEや日報で周知することを今後も続けていく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6		その日のお子さまの様子、他、保護者からの話や面談の内容など必要な事柄はその日のうちに職員で共有している。	今後も継続していく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		毎日、支援に関しての記録をしており、定期的にお子さまの支援の進捗の様子を確認して内容の改善や工夫をしている。	ミーティングを今後も定期的に実施し、記録をしっかりとっていく。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6		半年ごとにモニタリングを行い、支援計画の見直しと作成を行っている。	今後も児発管が中心となりモニタリングを行って支援計画をしっかりと見直ししていく。

関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		子どものことをすべて把握している児発管が参加している。	今後も児発管が参加していく。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6		教室の指定医療機関や保育園、幼稚園、障害福祉課、相談支援事業所などと情報を共有し連携して支援をしている。	今後も必要に応じて各機関に訪問したり、連絡を取って連携を図っていく。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6		移行支援、就学支援など保護者や関係機関と連携し支援ができています。保育園や子ども園、幼稚園、他の児童発達支援に訪問し相互理解を図っている。	今後もしっかりと連携を図って支援内容の共有や支援方針の見直しなどを行っていく。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	0	6	小学校や特別支援学校(小学部)との間での情報共有などは保護者を通して行っており直接はしていない。	今後、保護者との話の中で必要と思われる場合は、小学校や支援級、特別支援学校との直接の連携や情報共有を行っていきたい。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	6			
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	5	1	積極的な外部研修への参加は、時間的になかなか難しくできていないが、オンラインでの外部研修にはできる限り申し込んで参加し情報を共有している。	今後もオンラインなど参加可能な研修には積極的に申し込んだり、外部研修に参加できるように職員の体制を工夫していく。
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	6		子ども部会に児発管が参加している。	引き続き参加していく。
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイスや助言等を受ける機会を設けているか。	4	2	助言などは受けてはいないが、児童発達支援センターなどが主催する研修に参加している。	今後も研修に参加したり、相談支援センターを訪ねて助言を受ける機会を工夫して作る。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		6	保護者に地域の活動の機会をお伝えして参加を促しているが、事業所として他の子どもと活動する機会は作っていない。	地域の行事やイベントのお知らせは引き続きしていく。事業所での取り組みができるか今後検討していきたい。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	6		お迎えの際に毎回必ずお子さまの療育の様子と発達の状況、課題、成長などについて丁寧に伝えていく。参観日も設けている。	今後も引き続き丁寧でわかりやすくお伝えし、ご家庭での悩みや発達の課題について情報を共有していく。
保護者への説明等	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6		個別の家族支援を対面で都度行っている。必要な保護者様やご希望の保護者様には、療育を実践していただきながらお伝えしている。	令和8年にペアレントトレーニングを行う予定である。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		実施できている。	今後も丁寧に説明をしていく。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		初めてご利用の際は見学や体験などでアセスメントを細かくとってご家族の意向をお聴き取りし、出来る限り意思が尊重されるようにしている。	今後もお子さまご家族様の意思を尊重し、しっかりと意向をお伺いしていく。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	6		毎回、面談で個別支援計画を提示して一つ一つの療育における支援の内容を細かく説明し同意を得ている。	今後もしっかりと対面でご説明し同意をいただく。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		定期的な面談の他に、ご家族の要望があった際やごちらから必要と思われる際に面談をして助言やお聴き取り、相談支援をしている。	子育ての悩みが少しでも軽くなり、保護者様が日々笑顔でお子さまと関われるように今後も相談支援には力を入れて行っていく。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		6	保護者会の開催はまだできていないが、参観日を3か月ごとに設けて自由に参観していただいている。	令和8年は保護者会を開催していきたい。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6		保護者からの申し入れがあった際は迅速に対応の体制を整備している。どんなことも相談しやすい関係づくりを日頃から意識している。	児発管が保護者の相談や申し入れを受けており、今後も責任もって対応していく。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6		毎月通信を発行している。インスタグラム、ブログに教室の様子や療育の内容を投稿し、保護者に発信している。	保護者に役立てていただける通信や発信を意識して今後も行っていく。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6		契約時に個人情報の取り扱いについて詳しく説明し同意を得ている。毎日鍵付きの書庫で管理している。	施錠を忘れずにしっかりと管理していく。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6		している。どのような配慮があればお子さまがより安心して過ごせるか、保護者様と意思の疎通ができるかを考えて関わっている。	今後も配慮を常に考えて支援をしていく。障害ではないが外国の方で言葉の壁がある場合の配慮をもっと考えていきたい。
非常時等の対応	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		6	利用するお子さまの安全面や配慮上の問題などから地域の方を招待することなどはしていない。	事業所のある地域の方々と関わることはなかなか難しいが、イベントをお知らせするなどできることをしていきたい。
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。			マニュアルを策定し会議で確認している。保護者様には自由に閲覧できるように玄関に置いている。避難訓練や感染防止の研修などを行っている。	今後もしっかりとマニュアルを策定、見直しをしていき、訓練や研修を計画的に実施していく。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6		業務継続計画（BCP）を策定し、会議で全職員と確認し周知している。年2回避難訓練を教室の営業中に行い、実際の場面を想定して訓練を実施している。	今後も災害に備えて訓練を忘れずに実施し、迅速に対応できるようにしていく。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6		保護者との面談でのお聴き取りで詳しく確認している。定期的に変更がないか確認している。	服薬やてんかんなどの確認を今後も忘れずにしていく。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。		6	現在食物アレルギーのお子さまはいない。食事の提供はせず、おやつが必要な場合は家庭から持ってきていただくようにしている。	今後も食べ物の提供はせずに、食事に関してはご家庭の協力と理解をかなえるようにしていく。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6		安全計画を作成して全職員での会議で確認、周知している。避難訓練や研修を計画を立てて実施している。	今後も実施していく。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6		安全確保や安全な環境整備について契約時に説明している。	今後も説明、周知をしていく。

	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6		どんな小さなヒヤリハットも気づいた際は全職員で情報共有しすぐに対応して同じことが起きないようにしている。	再発防止を今後も徹底して対応していく。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		虐待防止委員会と研修を必ずしている。また児発管・管理者は県主催の研修に参加している。	虐待を防止するためにも日頃からの職員との話し合いや研修を意識している。今後も実施していく。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	6		実施している。基本的に身体拘束を行うことはしない対応の仕方を話し合って実施している。	引き続き身体拘束をしない対応を基本としていく。保護者への説明、記載も実施していく。

事業所における自己評価総括表			
公表			
○事業所名	てらびあぽけっと岐阜瑞穂教室		
○保護者評価実施期間	2025年 9月 2日 ～ 2025年 9月 30日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	26	(回答者数) 26
○従業者評価実施期間	2025年 9月 2日 ～ 2025年 9月 16日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 12月 18日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	お子さまが安全で安心して通える環境づくりをしていること。感染症などの予防に配慮して清潔な環境を整えていること。	毎日危ない場所などがないかをチェックし、ヒヤリハットがあった際はすぐに対策をして全職員で確認している。感染症が流行する時期はもちろんそれ以外の時期も、机といす、おもちゃ等の消毒を必ずしている。	定期的な設備の点検を行い、会議などで教室の環境について全職員で話し合う時間を作って環境整備への意識を高めていく。
2	緊急対応や災害時の対応について安全計画やBCPを作成して全職員で協議し確認している。	年2回の避難訓練を必ず行い、地震と火災を想定し、お子さまの利用中に抜き打ちで訓練をすることで、全職員が実際の災害が起きても対応できるようにしている。	保護者への周知を行い、緊急時や災害時の対応についての理解と協力を周知していく。
3	家族支援や子育てサポートに力を入れている。日頃の保護者さまの様子を見たりお話をお聞きし、悩まれていたり困っている様子が感じられるときは、時間を確保して詳しくお話を伺い、少しでも子育ての悩みが解決するように支援をしている。	保護者さまのその時の悩みやお困りごとに合わせて、どんな支援ができるかを考え、見学や助言、セラピーの解説、セラピーの実践など臨機応変にご提案している。	来年度、ペアレントトレーニングを行う予定である。そのためにも安心して保護者様が話せるように保護者会を開催し、保護者さま同士でのつながりやコミュニケーションをとる機会を作っていく。
	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者会やきょうだいにに向けた取り組みがまだ実施できていない。	担当する者の業務が多くなかなか開催する時間的な余裕が持てていない。	子ども部会と協力しペアレントトレーニングの研修を受けているので、さっそく来年度実施していく予定である。保護者会の開催の計画を立て開催していく。
2	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会が作れていない。	他の子どもと交流する機会を教室で作ることが時間的な問題や人員の少なさなどから難しい。	どのような形であれば地域の子どもの交流などができるのか検討していく。地域で開催される子ども向けのイベントなどの情報をお伝えする等取り組んでいく。
3			